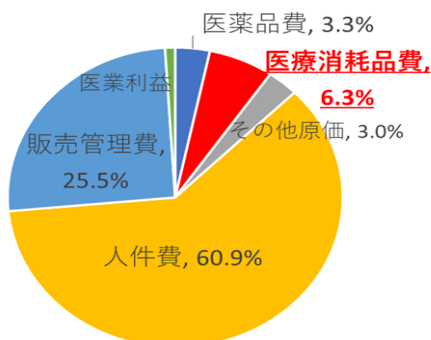


演題名	医療消耗品費の削減		
施設名	湘南慶育病院	(ふりがな) 発表者(職種)	(たけうち りょう) 竹内 良 (総務)
(ふりがな) チーム名	(こすとさくげん りすたーと) コスト削減 reSTART!		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	当院の医療消耗品費は2021年度の医業収入比5.6%(246百万円)であったものが、2022年度実績の医業収入比は6.3%(281百万円)に増加していた。 費用に占める割合が大きく、削減対策の取り組みによる効果が高いと見込まれるため、TQMテーマとして取り組んだ。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 医業収入に占める消耗品費の割合 (目標値) 改善期間2023年12月～2024年5月 6ヶ月間の医療消耗品費率を前年同期比-1.0%の5.4%とした。		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・医療消耗品費削減について、使用数量削減と単価低減に区分。そこから6つの想定課題と10の対策項目を設定。 ・今回の活動期間は、現SPDの仕組みの中で効果が出やすいと想定した課題から、同種同効品への置換(18品目)、コスト意識の浸透、感染対策品を含めて適切な発注数の管理を中心に実施した。 		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) 2022年12月～2023年5月の6ヶ月間 医療消耗品費率の実績6.7%(前年同期比+0.9%、金額148百万円) (実施後) 2023年12月～2024年5月の6ヶ月間 医療消耗品費率の実績4.6%(前年同期比-2.1%、金額104百万円)		
歯止めと 標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・診療部門別(オペ室、各病棟、外来等)の月別購入品目数量を明確化する ・仕入れから払出までの工程を見直し、在庫量を適正化する ・病棟毎の仕入れ実績を比較分析し、ベンチマーク指標を定めて管理する ・使用数量の多い品目から、同種同効品への置換を継続する ・オペ材料など単価の高い品目に関しては医師と連携して業者と直接交渉する 		
活動の種類 ※複数選択可	③テーマに合わせて形成したチーム活動 ④組織全体で取り組んだ活動 ②複数の職場が連携した活動	チーム メンバー (職種)	1 竹内 良 総務
活動の場 ※複数選択可	②支援部門 ①診療部門 ③管理部門		2 曾我 雄司 総務
活動期間	2023年10月～2023年6月		3 櫻井 恵美子 看護師
リーダー名 (職種)	竹内 良(総務)		4 木暮 綾子 看護師
活動回数	10 回		5 秋山 浩子 看護師
			6 矢満田 正司 経理
		7 野口 伸一 事務	
		8	
		9	
		10	
		11	
		12	
		13	

【現状把握】

2022年度の費用構成

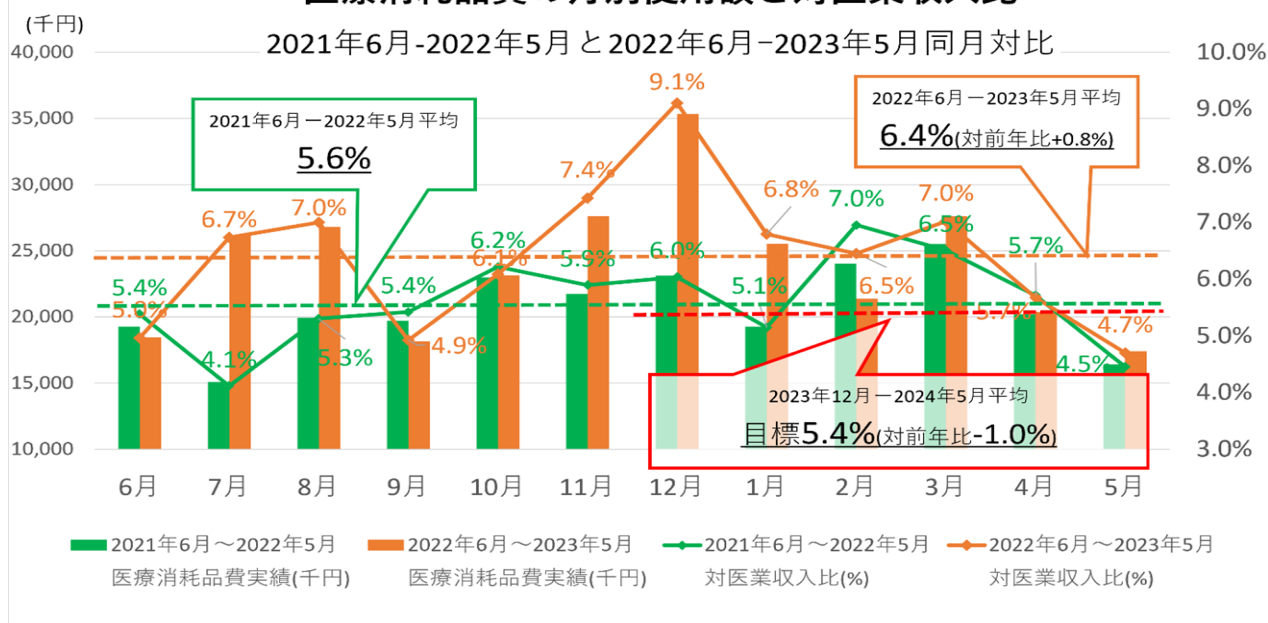


■ 当院の費用のうち医療消耗品は、単一の科目として最も大きな割合を占める。

■ 医療消耗品の使用金額は2022年度(2022年4月-2023年3月)の実績で281百万円であり、コスト削減活動による経営への貢献が大きいと見込まれる。

【目標設定】

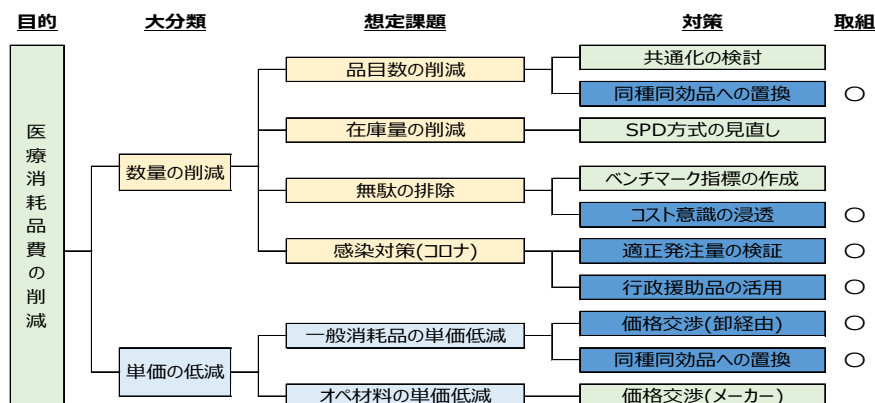
医療消耗品費の月別使用額と対医業収入比



■ 2022年6月-2023年5月(オレンジ)の医療消耗品費は期間合計で288百万円、医業収入比6.4%であった。前年同期間(緑)の医療消耗品費は247百万円、医業収入比5.6%と比較すると、医業収入比で0.9ポイント増加している。

■ 今回のTQM活動期間、2023年12月-2024年5月の医療消耗品費の医業収入比率の削減目標を前年度対比-1.0ポイントの5.4%と設定した。

【要因分析】



■ 要因分析は、使用数量の削減と単価の低減から分解し、想定課題を6、対策を10に区分した。

■ 今年度は、現状のSPD方式のなかで活動の効果が出やすいと考えられる対策から取組んだ。

【対策の立案と実施】

対策区分	数量/単価	具体的対策	効果(2023年12月-2024年5月)
同種同効品への置換	単価低減	酸素マスク、気管切開マスク、高圧蒸気滅菌用テストパック等18品目置換	162万円の削減 ※27万円/月
コスト意識の浸透	数量削減	経営会議およびSPD委員会での周知、物品倉庫での掲示	120万円超の削減 ※概算値
コロナ発生時 適正発注量の検証	数量削減	N95マスク等の購入に関して事前申請に変更 ※必要な感染対策は行う	150万円の削減 ※効果は適正在庫量の実現による
コロナ発生時 行政支援品の活用	数量削減	感染対策支援品の応募に対して積極的な対応を継続 ・N95マスク5,000枚、ガウン10,000枚以上 ・フェイスシールド、手袋5,000枚以上 ・パルスオキシメータ 200台	250万円の削減 ※当院購入単価の75%で試算 パルスオキシメータは含めず
価格交渉(卸経由)	単価低減	使用数量の大きな品目についてSPD業者と共にメーカーに単価ダウンを交渉。	値上げの抑止 ※一般消耗品(販管費)では削減



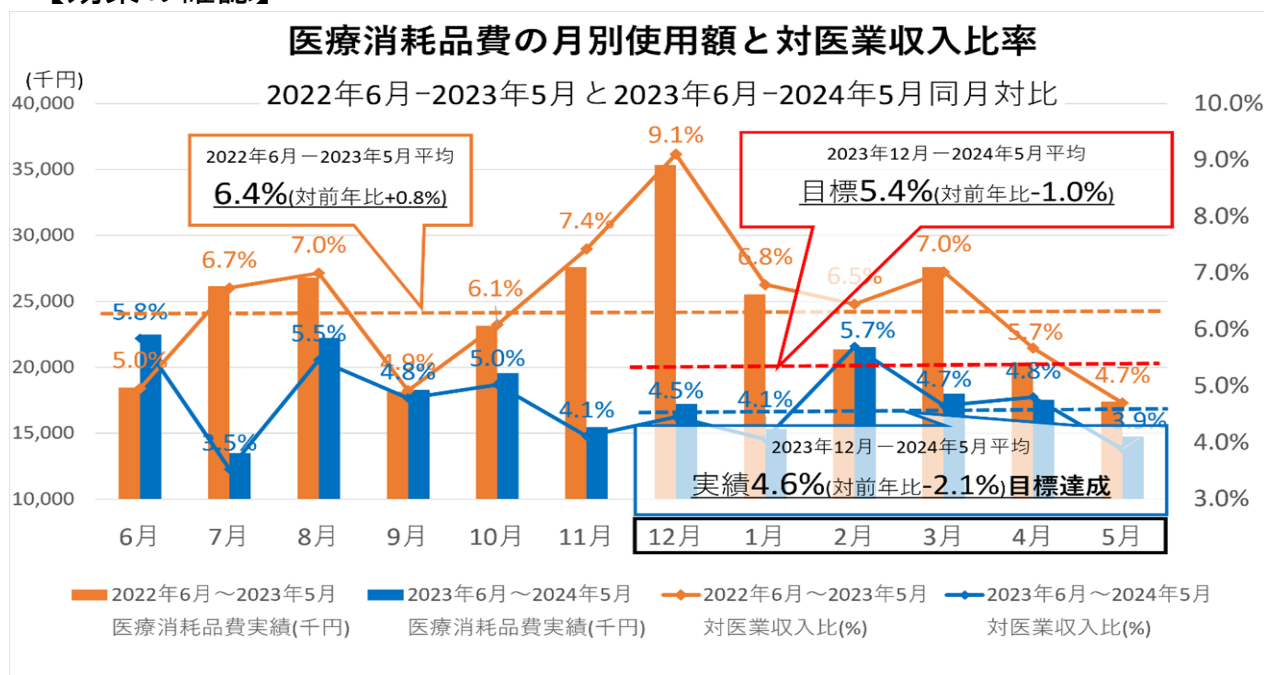
必要に応じた
使用の推進



行政支援品
の活用

■使用数量削減対策として、医療消耗品含めた費用削減について各種会議での周知や倉庫での掲示(※必要な感染対策は実施)。購入量が過剰にならないような管理の実施。
■単価低減策として、より低単価の同種同効品への置換を進めた。既存の品目についての価格交渉は値上げ圧力への抑止に留まり、削減につながるまでに至っていない。

【効果の確認】



■今回のTQM活動期間である、2023年12月から2024年5月の医療消耗品費の医業収入比は、**目標の5.4%をクリアし対前年比-2.1ポイント削減**できた。同期間の医業収入は55百万円増加しているが、医療消耗品費は43百万円減少している。

■2022年12月の医療消耗品費は35百万円と突出していたが、これは院内コロナ発生に伴う購入の増加によるもの。このうち13百万円は検査キットの費用であり、それを除いた金額は22百万円。同じくコロナの院内感染が発生した2023年12月の費用17百万円をオペ材料の購入差異2百万円を考慮して比較した場合においても、2023年12月の実績は前年を3百万円下回る。使用量の適正な管理と行政からの支援品の活用による成果と評価。

【標準化の検討】

医療消耗品上位20%品目の占有率（金額ベース:オペ材料/検査キットを除く）

部署	品目数	4月購入 合計(千円)	年間換算 (千円)	ターゲット (上位20%品 目)	ターゲット 購入額計(千円)	上位 20% 占有率
3東	151	1,066	12,792	30	806	76%
4階（東、南）	121	879	10,548	24	681	77%
5階（東、南）	131	1,193	14,316	26	899	75%
外来	300	2,372	28,464	60	1,964	83%
オペ室	190	4,731	56,772	38	3,421	72%
縦計	—	10,241	122,892	—	7,771	76%

■2023年4月に部署(管理単位)別の購入品目と上位20%品目の購入額の占有率を分析(ABC分析)したところ、上位20%の品目が金額ベースで76%を占めていることが判明した。

【反省と今後の方針】

課題	今後の方針	目指す効果
1 SPD方式の見直し	発注方法→納入→院内在庫までのすべての工程と管理を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理コストの削減 ・意思決定の迅速化 ・意思決定の精度向上 ・倉庫スペースの開放
2 適正発注量の検証	発注は発注点方式とバーコード管理に改め、原則各部署への直接納品とする。	
3 共通化の検討	各病棟、オペ室、外来等に区分しABC分析を行い、医療職と事務で共通化と同種同効品へ	<ul style="list-style-type: none"> ・品目数削減で効率化 ・単価の低減
4 同種同効品への置換		
5 ベンチマーク指標の作成	使用数量または金額の大きな品目について、病棟毎の使用数量を明らかにし病棟間で比較	<ul style="list-style-type: none"> ・使用数量の適正化
6 コスト意識の浸透	し適正な使用方法等について共有する。	
7 価格交渉（卸経由）	消耗品のうち、使用量の多いものから卸およびメーカーと価格交渉する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単価低減 (価格上昇圧力に抵抗)
8 価格交渉（メーカー）	インプラントなど高額なものは、原則的にメーカーに対して価格交渉を行う。医師およびオペ室との協調が必要。	
9 行政援助品の活用	コロナ以外でも補助金などの情報を取り積極的に活用。	<ul style="list-style-type: none"> ・購入費用の削減

■SPD方式の全面見直しを軸に、「見える化」「標準化」と「多職種連携」によるコスト削減を進める。